

第10回 松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピック

やさシティおもてなシティ推進会議

1. 日 時 平成30年10月5日(金) 15時30分～
2. 場 所 京葉ガスF松戸第一ビル 5階 会議室
3. 出席者 委員11名のうち9名出席
4. 傍聴者 なし(傍聴希望者なし)
5. 会議経過 (1) 開会 15:30
(2) 挨拶
傍聴確認(事務局より傍聴者なしとの報告)
資料確認(配布漏れなし)
議事録署名確認(名簿順につき上場委員に依頼→了承)
(3) 報告 ①事業進捗状況について
②ドミニカ共和国関係について
③聖火リレーについて
(4) 閉会 17:00

6. 議事概要

○長江会長

皆様、こんにちは。

大変お忙しい中、それから、朝から雨がぱらつくという感じで、足元が悪い中、ご出席いただきまして、本当にありがとうございます。

本日の会議の円滑な運営につきまして、委員の皆様方のご協力、そして多くの意見をいただきたいというふうに思っております。どうぞよろしくお願ひします。

それでは、次第の2番目にごございます議事のほうから入らせていただきたいと思います。

(1) の平成 30 年度事業進捗状況につきましてとなっておりますが、事務局のほうからご説明をよろしく願いいたします。

(事務局から平成 30 年度の事業進捗状況の報告)

○長江会長

ご説明、ありがとうございます。

ただいまの事務局からの説明に対しまして、委員の皆様からご意見とかご質問をいただきたいと思っておりますので、皆様方、いかがでしょうか。ございますでしょうか。

尾崎委員、何かございますか。

○尾崎委員

ドミニカのチームの方が随分喜んでおられたので、たくさんお土産をご準備されて。来年も、ワールドカップという国際大会が日本で行われると。12 チームで、ドミニカチームが選ばれるかどうかはまだ未確定なんですけど、来日されるということになれば、大会の応援だけにとどめるか、何らか市でやるのか、そういうのは考えが必要かなというふうに感じました。

○長江会長

ありがとうございます。

○伊藤委員

ちょっと質問があるんですけども、前にご説明があって、今回の事業を見ている、パラスポーツでボッチャの体験会とか多いんですけど、特に松戸市としてボッチャなどを繰り返される、これを進めるというのは、何か特別な理由があるのでしょうか。

○事務局

ボッチャの体験会を何度も繰り返しているというところなんですけれども、実はパラの競技を啓発としましてやりたいということがあるんですが、パラの競技の中でボッチャ以外の競技についてハードルが高いという現実的なことがございまして、あと、ボッチャにつきましては、お子様から、お年を召した方から、障害をお持ちの方も来てくださるということで、非常にやりやすいということで、そこから来ていただいて、楽しんで、ホストタウンのこととか、オリンピックのこととか、聖火リレーのこととか、そこから入っていただける入り口としましては、非常にいい仕掛けなのではないかということで、ボッチャを選んでやっているところでございます。

ですので、あすの松戸まつりでもボッチャ体験ブースというのを入れているのは、そういったところで、体を動かすという行為が入りますと、皆さん、笑顔になってほぐれるので、そういった意味でボッチャを選んでいるところでご

ざいます。

ただ、例えばウィルチェアラグビーの羽賀選手などにこの間もお越しただいて、話をお伺いしたんですが、ぜひ松戸にゆかりのある競技も今後市民の方にお披露目したりとか、その場で見ていただいたりとか、小学生や中学生やお子様に見ていただいたりということをできたらいいかなということは今後の課題として考えております。

○伊藤委員

じゃあ、特にボッチャをされておられるのは、なじみというか、やりやすいというか、そういうことで、特段、松戸に何かゆかりがあるとか縁があるとか、そういうあれではない。

○事務局

縁があるということではございません。

○長江会長

松戸に矢切の特別支援学校というのがございまして、そちらの中でボッチャを結構積極的に取り入れて活動していて、矢切の周辺の市民の方々も一緒に交流しながらやっているということを校長先生から伺っていたんです。

岡本委員、何かございますか。

○岡本委員

私のところにちょっと情報が入っているのは、レスリングの松戸市出身の須崎さんが来たんですね。

○事務局

須崎選手は、今回、吉田選手がお越しのときにはご両親がお見えになってくださって、アマチュアレスリング協会の皆様にもご見学をいただいたんですが、須崎選手は遠征とかでお忙しくて、当初私もレスリングの選手が学校訪問されるということで、須崎選手がお越しになるのかなということで想定していたんですが、日本レスリング協会に相談していたところ、吉田選手ということでお話がございまして、逆に驚いてしまったところもあったんですが、現役の選手ですと海外を飛び回っている時期だということもお父様とお母様にお話を伺っております。

○岡本委員

わかりました。

○長江会長

ありがとうございます。観光協会のほうで、須田委員。

○須田委員

うちのほうは今、オリンピック・パラリンピック推進室とともに、いろいろな事業をやらせていただいているので、ある意味、事務局的な中で、連携しながら、特にプロモーションであるとか、市がやりにくい部分をしていますので、

そういう中では協力的にやっている。ただ、その中で、1つだけ、今までは夢の教室の数が今回あまり載っていないんですけど、その辺は資料は別途あるのでしょうか。それは個別には要らないので、概ねのことをこれだけやっているみたいなものがあれば。

○事務局

そうですね。夢の教室は、今年も9月からやっております、もう今年で4年目で、全小学5年生を対象にやらせていただいております。自治体が主催して夢の教室をやっているのでは、全国的にも最大規模ということで聞いております。その中で、夢の教室で話した夢の先生が逆に子どもたちから刺激を受けて、もう一回、選手に戻ろうとか、そういう心の触れ合いも生まれているというような状況も聞き及んでおまして、いい事業なので、長く続けていけるようにしていきたいと思っております。

○長江会長

ありがとうございます。続いているということで。西機委員は何かございますか。

○西機委員

6月に、期間がない中でご協力いただいて、学生と学園祭の中でしまして、2日間で300人ぐらい来ていただいて。

学生もいい経験をさせていただいて、でも、一方で、夏休みに2回ほどあったんですけど、学生は夏休みになると、なかなか協力するようなことができなかつたりして、ご協力いただいたのに、8月のボッチャ体験会は逆にできなくて非常に心苦しいんですけど、先ほどお話あったボッチャ、学生にとっても、設営と指導とかどんどん広げるのは普及させやすいと思うので、先ほどおっしゃった、松戸としてボッチャが特別にないのであれば、逆にボッチャを松戸市で普及させてしまうような働きかけをするのであれば、ボッチャに絞って、それを指導できる指導員を増やしたりとかしていかないと、結局長続きしないし、広まらないのかなと。一方で、いろんな種目を紹介するという方針でいくのであれば、それはそれで学生たちもまた違う関わり方で、プロジェクト型にしてやるのであれば、うちの茨城のキャンパスであれば、施設があるので、ウィルチェアーラグビーもゴールボールもブラインドサッカーも、選手の人を呼んで地域の人に体験してもらうということは、学生と指導の方さえ来ていただければ、動員すれば、結構できちゃうのはできちゃうと思うんです。ただ、場所が、イベントって、区画でちょっとしたブースでしかできないとか、教室とかとなってくると、ボッチャがすごくやりやすいとは思っているので、あれもこれもというよりは、方針さえ決めれば、それに応じて学生も計画を立ててチームをつくるとか、あるいは地域で指導者をふやすとかというのを集中的に計画を立ててしまつてこのイベントもやらないと、多分、イベントごとに準備して、人を投下

して、でもそれが持続しない、そのたびに結構労力がかかるという部分もあるのかなど。こちらもご協力し切れていないので、あまり偉そうなことは言えないんですけど、そういうふうな方針を決めたほうが展開はしやすいのかなど。

○事務局

西機委員、おっしゃってくださったように、やはり広めていくためには、例えばポッチャの資材を貸し出すとか、ルールをわかっている人をふやすとか必要だと思っております、資材については、実は教育委員会で持っていたもので活用されていないものが2セットあったということがわかりまして、それを庁内で共用して、うちのほうで今、所管させていただいているのがあるのと、あと、ポッチャのルールをうちの職員が学びに行ったりとかして、正式にトレーナーとかを養成するというよりは、地域でやる方々をふやしていくみたいなことは、ミニ講習会みたいなことをやっていけたらいいかなというところで、私どもが直接体験会を開かなくても、皆様が楽しんでいただけるような取り組みをぜひこれからやっていけたらいいなということで考えております。

○長江会長

ありがとうございます。上場委員のほうからは何かありますか。

○上場委員

ぼくはアスリートなので、先ほどバレーボールのほうで尾崎社長がおっしゃっていたような、ドミニカ共和国との連携でもっと深められたらすてきだなという思いと、あと、選手を目線からですと、選手が実際に松戸市民と触れ合うみたいな機会というのが一番身近にかかわったという記憶に残るところだと思うので、そういう機会を今後つくっていただけたら、より残るのかなというふうに思いました。以上です。

○長江会長

ありがとうございます。太下委員は。

○太下委員

事業進捗、ご紹介いただいたんですけど、ほとんどがスポーツ系で、私は文化施策でお世話になっていて、文化も目配りして取り組みいただければなというふうに思った次第です。

○長江会長

ありがとうございます。商工のほうから、薄葉委員は。

○薄葉委員

ありません。ただ、話を聞いていると、これだけやるのは大変だなと。競技そのものも千葉県に来るようなんですけど。そういうようなことで、私はNHKのテレビで吉田沙保里さんを見て、その後、見て、びっくりしちゃった。直接的じゃないでしょうけど、そういうので来てくれたのかなど。そんな感想です。すばらしいと思います。

○長江会長

ありがとうございます。

それでは、引き続きまして、2番目のドミニカ共和国渡航報告書についてと、ドミニカ共和国3競技連盟との事前キャンプに係る覚書締結についてということで、皆様方の会議次第のところは2と3でございますけれども、これにつきまして、事務局のほうから説明をよろしくお願いいたします。

(事務局からドミニカ共和国関係の報告)

○長江会長

ありがとうございます。それでは、ドミニカに関しまして、2番と3番の報告を事務局から頂戴しました。委員の皆様方からご意見とかご質問をいただきたいと思っております。いかがでございますでしょうか。伊藤委員、何かございますでしょうか。

○伊藤委員

ドミニカについては、先ほどご報告いただいたので、全体的に事前キャンプの話が中心なんですけれども、ドミニカ共和国に渡航した際に梨の交流の関係でJICAに伺っているということで、今度、そういう方面の協力というのが、オリンピックが終わってからも続くので、続けていかなきゃいけないと思いますので、いろんな方面からの協力が進んでいく、これは大事にやっていきたいなと思っております。

それに加えて、先方のほうからは、梨だけじゃなくて、ブドウだとかイチゴだとか、農産物の支援や協力ということもありますし、あるいはそれだけではなくて、若い人たちの青少年の交流とか、ちょっとドミニカは遠いので、なかなか行くのは大変なんですけれども、そういう交流が多くなって、また、道筋をつけて、そういう約束をまず取り組む前にできたら、さらに続けていけるような形になっていければいいなと思います。

○長江会長

ありがとうございます。継続的な交流という点は、含んでいないのか。

○事務局

私たちは、今、東京オリンピック・パラリンピック推進課という課の立場にいるものですから、誠に申しわけないですが、今はオリンピックがゴールという形の組織でございますが、もちろん梨の交流とかも含めて、その後、ホストタウンとしては将来も踏まえておりますので、そこは考えていかなければならないと思っています。

○長江会長

特に農業とか林業とかそういう交流が、千葉大の園芸学部があるので、バイ

オ的な施策が、日本の最先端として。

○事務局

文化観光国際課で招聘して、今、3名、市長さんも含めて研修で来ているところなのですが、そのときのスケジュールを見たら、結構千葉大さんのご協力をいただいているような話は聞いております。

○長江会長

ありがとうございます。それでは、須田委員。

○須田委員

今の補足的な部分で、今回、うちのほうの文化観光国際課のほうから、運営については委託を受けているので、その中では、千葉大は2回、3日と10日に千葉大で講義をやります。座学的なものは、梨のつくり方というのを大学の先生にお話いただいてから、ほ場を見ていただく。松戸ほ場のほうは今、あまり多くないので、柏のほうに10日に行って、最終的に、梨だけではないような、先端農業も見ていただくということになっています。

梨自身が、温度とか気候とかの環境の中でどこまでできるのかということもありますけれども、伊藤委員から先ほどお話があったように、梨だけでない、それも並行して進めながら、向こうは今回来ているのは、農業事業者の育成と観光農園みたいなノウハウを学びたいということで、それもあわせて今回、カリキュラムの中に入れて、14日間で学んでもらうと。

それから、来ているメンバーは、農地省の生産部長さんと、報告書にもありましたけど、農地省の農業研究所長さんと市長さん、この3名が来ています。本来であれば、農業従事者かなというふうに最初は思っていたんですけども、基本的にはマネジメントのあれを呼ばないことには、全体に広がらないので、まずはそういう方たちを何名か呼びして、現地の中で農業生産方法であるとか工程を普及していこうというようなプログラムになっています。

この中で、今回来ている方とはずれますけど、先ほど太下委員からあった文化的なプログラムの部分の話、今、ドミニカや中南米の場合はダンスというような、比較的新しいけれども、文化的な音楽なんかも、今回の松戸まつりでもやるんですけども、松戸まつり実行委員会にお願いして、7日に向こうのダンスチームを呼んで踊るとか、それから、他の国についても、中南米のものに対しての、文化なり商品なりを紹介するという事で展示するという風に思っています。

一方、ルーマニアには、去年、ブラショフの交響楽団を呼んだりですとか、そういうこともやっていっていますので、今後、ホールの中でやるものだったら、ダンスとか音楽だけに限らず、もう少し違う展開ができればいいのかなとは思っています。以上です。

○長江会長

太下委員、いかがでしょうか。

○太下委員

ぜひ須田さんを中心に。

○長江会長

逆に、今日は、文化のこういう広がり的事例があるよとか、そういうこともアドバイスいただけると。

○太下委員

メインになる東京自身がまだあんまり動きが見えないということもあるんですけど、東京都については、ご案内の方もいるかもしれませんが、「Tokyo Tokyo FESTIVAL」というのを2020年に向けてやっておりまして、しばらく前、ことしの春ごろ、ポスターが地下鉄とかに張ってあったので、メインの事業を委託事業でやるという、それを公募していたんですね。1件当たりの委託額が結構大きくて、最大で1件2億円という、サマージャンボ宝くじみたいな、世界中から3,000近くも応募があって、それを東京都としては絞り込んで、まだ決まっていませんけど、多分、そう遠からずあると思います。そうなってくると盛り上がっていくんだと思うんですね。

あと、政府のほうは、文化庁じゃなくて、官邸直結で、日本博覧会というのを2020でやろうというムーブメントがありまして、これは別に東京だけじゃなくて、日本全国だというふうに言っていますので、そこと何らかとまた連携というんですか、冠みたいな形でつくのか、多少お金がつくのかどうか、というお話があります。

一応窓口は文化庁になっていて、来年度予算で今、25億円を要求しているというふうに聞いております。徐々に文化プログラムがそうやって見えてきますので、先にどんどん仕掛けていって、何か機会があれば、そういう補助金なんかの申請をされるという形がいいかなと思います。

○長江会長

岡本委員、何かございますか。

○岡本委員

特別ありません。随分大きい人がいるなと思って、テコンドーをやる人みたい。実際に見てみて大きかったですか。

○事務局

そうですね。外国人の方は基本的に大きい方が多いです。

○長江会長

上場委員、何かございますか。

○上場委員

またバレーボールの話になっちゃうんですけど、世界バレーで来ているチームに来ていただけないかというところで、今、返答待ちみたいなことなんです

けど。

もし来ていただける場合にどなたと交流されるかなというのが気になる。

○事務局

練習相手とか、こちらも実はそこら辺をどうしようかなというのは、実際にもしも来てくれることになったら、またいろいろ上場さんに相談しようかなという話は考えていたところなんです。

○上場委員

実際に来たときはどういう対応になるのかなと気になったので。

○尾崎委員

JVAという日本バレーボール協会の専務理事が、きちんと決まったら、恐らく対戦相手とかそういう話になるので、そのときに相談してくださいと言われていきますので、ただ、確実に来ていただけないとだめなので。

また、岡山はもう1カ国呼んでいますからね。あそこはシーガルスというチームがありますので。そういうのがあるかなと。きちんと決まれば、そういうふうなコメントをいただいていますので。

○事務局

ありがとうございます。それと、お隣の流山市がオランダのホストタウンになっておりまして、今回も世界バレーにオランダが出場しているんですが、松戸と流山はお隣ですので、ドミニカとオランダの練習試合など、可能性としては考えられるのではないかなと。多分、同じリーグに入ったりしたら、逆に嫌がると思うので、違っていたりすればいい練習相手になるところもあると、そんなことも考えたりしております。

○事務局

いずれにいたしましても、今回、浜松で応援していたときも、非常に心強い会長からのお話、松戸にはセノーもあるしということのはっきりおっしゃっておいりました。だから、松戸は望みは別にないわけではないと思っていますし、これからもいろいろな手を使ってやっていきたいと思っています。やはりじかに子どもたちに選手たちのプレーを見せてあげたいなと私もわくわくしましたので。

○事務局

生で見ると、外国選手の音とか声とか、ワーなんて言ってスパイクを打つところとか、本当に子どもたちに見せたいなという思いはあります。

○尾崎委員

ドミニカはソフトボールなんかは。

○事務局

ソフトボールは中南米の地域がどこも強くて、今年、世界女子ソフトボール選手権があつて、あと一歩で来られなかったというのが。

○尾崎委員

アメリカが決まっちゃえば、次ぐらいにはドミニカということなので。

○事務局

そうですね。ただ、勝負の世界はわからないので、望みは捨てておりません。

この間、千葉県が会場になった世界女子ソフトボール選手権が16チーム来ていますけど、オリンピックは6チームの予定になっています。日本とアメリカは決まりなんですけど、あと4カ国しかないということで、希望は捨てていないんですけど、厳しいところもあるのかなとは感じております。

○長江委員

西機委員のほうから何かございますか。

○西機委員

先ほどボッチャのお話が挙がっていましたが、ホストタウンの受け入れ、あるいはもう少し持続とかというのでいうと、パラの選手が来たときにそういう交流で、比較的市民の人がかかわりやすいのは、アスリートほどかかわりはないでしょうけど、さっきのボッチャとか、ゴールボールとか、生涯スポーツとしてやりやすい競技の方に来ていただいて、市民と交流あるいは紹介するということはすごくいいきっかけになると思うんですね。そういうときに、そういう部分を積極的に、例えばドミニカのような、まだパラスポーツも発展していないようなところに、向こうにもある意味サポートしてあげたりとか。JICAの話が出ていましたが、これはあくまでも梨の件ですよ。私は、JICAとずっとスポーツのコーチ会員のことをやって、大学連携でインドネシアのラグビーの発展を大学でサポートする仕事をしています。学生の行き来を最近するようになっていきますので、コアになる人だったり、コアになる種目を固めて、それを軸にした交流で指導者とか選手が行き来するような仕組みをパラだったらつくれるんじゃないのかなと感じたので、そういうプランができるといいのかなと思っていました。

○事務局

実はパラの競技の事前キャンプだったりとかも、できればやりたいなというのは思っているんですけども、今回ドミニカが来たときにも、バレーボールといっても、パラの競技もあるよということは情報としてはいただきました。私たちもスポーツのことになれていないので、いろんなことを同時並行でやることができなかつたので、今回はオリンピックの競技に集中してやったんですけども、パラのほうも検討して、ドミニカだったり、ルーマニアだったり、いろんなところにやっていきたいと思っております。

あと、国のほうでも、パラの競技にもうちょっと注目してほしいということをおっしゃっていただいて、そのことについては、国がもうちょっと仲介してくださるという情報も実は出てきているので、そういったことも今後進めていきたい

いと考えています。具体的にはお示しできないんですけど。

また、施設的な課題があると思うんですけど、可能性を探っていきたいと思います。

○長江会長

ありがとうございます。皆様方からほかにはございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、引き続きまして、4番目の聖火リレーでございます。前回の1964年のオリンピックのときに、実は市川橋を通ったという聖火で、今回は松戸を通ってもらいたいという熱い思いを持っておりますので、報告のほう、よろしくお願いいたします。

(事務局から聖火リレーに関する報告)

○長江会長

ありがとうございます。聖火リレーについて、事務局よりご説明がありました。皆様方のほうからご質問とかご意見がありましたら、よろしく願います。

○須田委員

確認なんですけど、神奈川県のは千葉県、千葉県のはどこ。

○事務局

茨城県になります。

○須田委員

普通、アクアラインを渡っていくのも、さっきみたいな運び方であれば、東京を通らないとするなら、アクアラインしかないの、その先の話になるのかなど。

もう一点は、聖火リレーのアンケートについて。1日からなので、うちなんかも、観光協会の会員になると、そういう人たちにこういうことに対してということ、市として、庁内も含めた、みんなで教えてという。

○事務局

庁内の掲示板でアンケートへのご協力をお願いしますというお知らせをいたしました。また、ホームページにも載せさせていただいておりますが、ホームページに載せたからといって、なかなか情報が広まるわけではございませんので、まず、口コミで、松戸まつりでも、明日、市民の方に、ちょうどいいので、PRしていきたいと。戸定邸の写真がアンケートの中央にはございますので、ここに載ったというのはありがたいことだと思っておりますので。

○尾崎委員

松飛台まつりが、事務局が横のほうに、我々の会社でも、その1日だけです

けど、ブースを出すので、そのときに、この紙は僕らが勝手にコピーしていい
のか。

○事務局

それは大丈夫です。よろしければ、ぜひご協力をいただけるとありがたいと
思います。

○須田委員

組織的にお願いしたいみたいな形は。

○事務局

それを15日の庁内会議でお願いしようと思っております。専用フォームで回
答できますし、郵送でももちろんできるようになっておりますので。

○長江会長

はがきかなんかに貼ればいいんですか。

○事務局

そうですね。

○長江会長

載せていただいて結構ということなので。

○事務局

よろしく願いいたします。

○長江会長

松戸まつりでのPRとか、そういうのは。30万人以上きますよね。

○事務局

明日行きます。

○岡本委員

アンケートは数が多いので、最終的には委員会で決定していくという。

○事務局

参考にするということで、単純に1番から上の3つを選ぶとか、そういうこ
とではないというふうには伺っています。

○岡本委員

数が多いほうがいい。

○事務局

それは有利になると思います。

○須田委員

どうやって選んでいくかという。3つまでだから、3つ選択することない
んですよ。1つにしないと、よそのが増えちゃうから。戸定だけしか押さない。
そうしないと。よそのところは気を使って入れてあげると、よそが伸びちゃう
ので。

○事務局

観光協会でも載せていただければ。

○長江会長

隣のまちからも大臣が出ていますけど、広げていくという形でできるだけ委員の皆様方をお願いしたいと思います。

○事務局

よろしく申し上げます。

○長江会長

それでは、委員さん方から本日はご意見をいただいたんですけども、そのほかに何か質問とかご意見とかございましたら、よろしくお願いいいたします。

あと、事務局のほうから。

○事務局

その他の情報提供でございますが、昨日、毎日新聞におきまして、「東京五輪のレガシー生産」としまして、「ちばの底力」ということで、セノ一様の記事がちょうど載っております。本当誇らしいことだと思っておりますし、こういった情報をまた発信していただけますと大変ありがたいと思いますので、共有させていただきました。よろしくお願いいいたします。

○長江会長

ありがとうございます。

前回の東京オリンピック、レガシーの生産ということで、尾崎委員から一言。

○尾崎委員

我々のところに来たので、びっくりしたんですけど、コメントの中のようなことをしていきたいと思います。

ちょっと1つ質問いいですか。

○長江会長

お願いします。

○尾崎委員

僕らの工場が群馬県沼田市というところにありまして、沼田市はフェンシングでドイツの国を合宿で呼びまして、今年から短期間であと3回呼ぶというぐらいで計画して、それをやり始めてから、SNS、フェイスブックとかそんなものを使って、キャンプの情報とか、あるいは祭りの情報とか、そういうのを始めるきっかけにしたようでして、松戸なんかもされているのであれば、もうちょっとうまく若い人たちにひっかかるとか、そういうふうにしたらどうかなというのと、こういうオリンピックにかかわる取り組みなんかは、タグをつければヒットされやすいので、そういうことをしたどうかなと。意外と人口の少ない沼田市とかが一生懸命やっているの、いいきっかけにしてはどうかなと。

例えば上場選手、今もトップのトーナメントで出られているので、そういうものなんかもうまく取り上げられると思いますし、多分、松戸市で中学校とか

小学校で全国トップクラスのスポーツであったり、あるいは音楽とかそういうのも載せていくようないいきっかけづくりにしたらどうかなと思うんですけど、とちょっと思いました。

○事務局

SNSを使ってということは、非常に有効だと思っておりますので、松戸市もフェイスブックがあります。そういったところとか使って、あと、ツイッターもありますので、実は今年になってから、ホームページにうちの課のブログみたいな形で新しい情報をどんどん載せているというのはあるんですが、載せているだけだと、どれぐらい見ていただいているのかがわからないので、ぜひSNSにも挑戦できるように検討してやってまいりたいと思います。

私どもの発信していることが、すなわち松戸のアピールになっている現状がございますので、例えば、ドミニカの選手が視察に来てくださるとか、吉田選手が来てくださるというのを必ずマスコミで取り上げてくださって、いい情報として、皆さん、受けとめてくださっているという手応えも感じておりますので、積極的に、シティプロモーション担当室というところもがございますので、そういったところとも協力してやっていきたいと思っております。

○尾崎委員

スポーツ選手は結構好きなんですね。自分で写真を撮って。だから、そういうのは、発信する際のことと、プレーヤーのその人たち自身もそういうところでよかったシーンなんかを自分でアップするので、双方向になっていいんじゃないかと思うんですね。

○長江会長

ありがとうございます。伊藤委員のほうからよろしく願いいたします。

○伊藤委員

ホストタウン2カ国というルーマニアとドミニカ共和国なんですが、例えば、こういう広報まつどに出す以前については、私もいろんな市民の方と話してきて、今年の初めにちょっと聞いてみたら、全く松戸市がホストタウンになっていると知らなかったので、一応そういう話をしたりして、この後、広報に出たり、その他ちょっと出ていますので、徐々にですけども、市民の中で、少なくともこの2つの国で事前キャンプを行うだとか、何かありそうだというようなことで、だんだん周知され始めているので、引き続き、広報、いろんな機会を捉えてやっていただきたいと思います。

それから、もう一つ、若干抜けているかなと、できればやりたいなと思うのは、それぞれの国で松戸という都市は、オリンピック・パラリンピックでドミニカなりルーマニアの自分たちの国の選手のことをサポートしたり、いろんなことをやって協力してくれているということ、その国の中でどこまで広報できるかというのが気になっていて、せっかく我々がこれだけ労力を使って、予

算を使いながら、その国の選手に協力しようとしていろいろやっているわけなので、相手国が松戸のマの字も知らないという状況で最後までいってしまうのは残念だなと思うので、何かの機会に松戸のPRをドミニカなりルーマニアでやっていただけないだろうかということ、そういう観点からいうと、ドミニカについては、皆さんが行かれることもあると思うし、そういった機会に、例えば何かのイベントを設けて、松戸のPRをして、ドミニカの選手たちにこういうことをやろうとしています、やっていますよというようなことをPRするとか、あるいは、これは大使館なんかと協力してもらわないとだめだと思うんですけども、向こうのマスコミ、新聞にそういう記事を投稿するとか、そういう形で少しずつオリンピックについても、それから、あと、今度、11月にルーマニアに松戸の代表団が行きますよね。ですから、市長が行かれるか、当然PRの宣伝広告塔になるわけですから、関係者だけに会うんじゃなくて、もっと目につくところで松戸のことをPRしてもらおうとかいうようなことで、何ができるのか、なかなか難しいと思うんですけども、できる限りそういったことを念頭に入れながら、まだ2年弱ありますので、徐々に、いろんな機会はあると思うので、そういった機会にこういうこともやっているよという努力をわかってもらえるようなPRをしていただければなど。私もご協力できることがあればしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○須田委員

ドミニカ共和国については、梨と一緒にやっていて、梨のときには、農地省が必ずメディア系、いわゆるプレスはほとんど入れてありますし、テレビ映像も含めて出してくれているので、逆に広報的な部分のことは成功している。ただ、オリンピックというと、そこだけが脚光を浴びないので、梨とあわせて。農地省がやっているの、政策的なプロパガンダとして結構向こうも活用している部分もあるので、そのあたりをうまく乗せていければ、今、伊藤委員がおっしゃったような話になるのかなと。一方で、ルーマニアとかドミニカで作業というか、伊藤委員のほうが得意なのかなと。プロパガンダの戦略というんですか。

○伊藤委員

オリンピックについては、恐らくやっとならぬということに関心を持ってくる年だと思いますので、これからやれば十分に合うことができると思いますので、もっと直前というか、近づいてからやってもできるのかなと。

ですから、これから考えながらやってもらえばいいかなと思います。

○長江会長

ありがとうございます。委員の方からほかにございますでしょうか。

それでは、本日の会議をこれで終了いたします。

今日、かわいらしい人形のほうは、紙でつくった。

○事務局

ペーパークラフトで、紙の状態のものと折り方の方法がネットに書いてありまして、昨日、悪戦苦闘しまして、2時間ぐらいかかってやっと1体つくって、もう一人が2時間ぐらいかけてやって、きょうはスムーズに、2体目の作品でございませう。こういうのがあると、皆さんに目につくかと思ひますので、特に子ども向けに広めていけるように。2時間というのは大変なんですけど。

○長江会長

ありがとうございます。ドミニカとの交流のときにもお呼びいただいて、本当におもてなしの気持ちを出していただいているので、ありがたいと思ひております。

次回の会議は、来年に入ってから予定しておりますけれども、日程が決まりましたら、正式に委員の皆様方にご通知させていただきたいと思ひます。本日は誠にありがとうございました。